



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年10月30日

上場取引所 東名

上場会社名 株式会社 木曾路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 服部 昭仁

四半期報告書提出予定日 平成27年11月6日

配当支払開始予定日

TEL 052-872-1811

平成27年11月27日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	19,741	△2.4	△1,041	—	△1,025	—	△761	—
27年3月期第2四半期	20,219	△0.6	△999	—	△972	—	△871	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△29.46	—
27年3月期第2四半期	△33.73	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	36,836		28,643			77.8
27年3月期	38,213		29,522			77.3

(参考)自己資本 28年3月期第2四半期 28,643百万円 27年3月期 29,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
28年3月期	—	7.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	1.3	200	△14.5	255	△7.3	△260	—	△10.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	25,913,889 株	27年3月期	25,913,889 株
28年3月期2Q	77,416 株	27年3月期	76,960 株
28年3月期2Q	25,836,745 株	27年3月期2Q	25,837,565 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、「添付資料」4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第2四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成28年3月期	19,741	△1,041	△1,025	△761	△29.46
平成27年3月期	20,219	△999	△972	△871	△33.73
増減率(%)	△2.4	-	-	-	-

当第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和により企業収益や個人消費、雇用・所得環境の改善など景気は緩やかな回復基調で推移しました。その一方で海外経済の動向など依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、株高などによる消費マインドの改善から個人消費の持ち直しがみられるものの、円安の影響から原材料価格の上昇や人材の確保、異業種との競争など依然として厳しい経営環境で推移しました。

このような経営環境の中で当社は、1店舗の新規出店、1店舗の改築、1店舗の改装、2店舗の業態転換(鈴のれんからじゃんじゃん亭、穂の里(改装中))、2店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は168店舗となりました。

営業面では、旬の食材による料理や接客サービスの充実に努めるとともに、春の歓送迎会、GW、夏休みなどの季節毎のイベントを中心に販売促進活動を実施しましたが、前年同期と比較して、客数が減少、客単価は微増となり、売上高は2.4%の減少となりました。

費用面は、売上構成比で比較すると、円安、天候不順などによる食材の値上がりや、厳しい採用環境にもとで給与、募集費等の構成比が上昇し、原価率、人件費率がともに上昇しました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は197億41百万円(前年同期比2.4%減少)、営業損益は10億41百万円の損失(前年同期実績9億99百万円の損失)、経常損益は10億25百万円の損失(同9億72百万円の損失)、四半期純損益は7億61百万円の損失(同8億71百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曾路	16,743	16,320	△2.5
素材屋	1,363	1,264	△7.2
じゃんじゃん亭	506	706	39.6
とりかく	526	512	△2.5
鈴のれん	681	563	△17.3
ウノ	364	337	△7.3
その他	34	34	1.2
計	20,219	19,741	△2.4

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の改築により、当第2四半期会計期間末店舗数は119店舗であります。

営業面では、春の歓送迎会、GW、夏休みなどの季節毎のイベントや恒例の「和牛しゃぶしゃぶ祭り」を実施するとともに旬のメニューなどの充実に努めました。売上高は163億20百万円(前年同期比2.5%減少)となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は18店舗であります。

営業面では、旬メニューの充実や焼酎のお値打ち販売並びに平日限定フェアの実施により来店客数の増加に努めました。売上高は12億64百万円(同7.2%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の改装、1店舗の業態転換により、当第2四半期会計期間末店舗数は9店舗であります。

営業面では、法人や学生のイベント等に合わせた予約獲得活動を強化し、また、全店で食べ放題メニューの拡販とスピード提供に取組み来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は7億6百万円(同39.6%増加)となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、歓送迎会などの宴会メニューをより充実させ、また、こだわりの旬の一品提供などを行いました。その結果、売上高は5億12百万円(同2.5%減少)となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、2店舗の退店、2店舗の業態転換(じゃんじゃん亭、穂の里)により、当第2四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、季節ごとのメニューや限定コースの設定など料理・接客サービスの充実にも努めました。その結果、売上高は5億63百万円(同17.3%減少)となりました。

ウノ部門

ワイン食堂の「ウノ」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は6店舗となりました。

営業面では、豊富な種類のワインを取り揃え、また、食材等のフェアの実施やパーティーコースの充実などに努めました。その結果、売上高は3億37百万円(同7.3%減少)となりました。

その他部門

その他部門は、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

その売上高は34百万円(同1.2%増加)であります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成27年3月31日現在)	当第2四半期 (平成27年9月30日現在)	増減
総資産(百万円)	38,213	36,836	△1,377
純資産(百万円)	29,522	28,643	△879
自己資本比率(%)	77.3	77.8	-
1株当たり純資産(円)	1,142.64	1,108.63	△34.01

当第2四半期会計期間末の総資産は368億36百万円で前事業年度末比13億77百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩したことによるものであります。一方、負債は、81億93百万円で前事業年度末比4億97百万円の減少となりました。これは主に未払消費税等、買掛金及び未払費用が減少したことによるものであります。また、当第2四半期会計期間末の純資産は286億43百万円で前事業年度末比8億79百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失7億61百万円(減少)、剰余金の配当1億80百万円

(減少)によるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は77.8% (前事業年度末は77.3%)、1株当たり純資産は1,108.63円 (同1,142.64円) となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(第2四半期累計期間)

	平成27年3月期 (百万円)	平成28年3月期 (百万円)	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	△632	△989	△356
投資活動による キャッシュ・フロー	△470	△373	97
財務活動による キャッシュ・フロー	△262	△215	47
現金及び現金同等物の 四半期末残高	11,796	11,975	-

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが9億89百万円の流出超過 (前年同期は6億32百万円の流出超過) となりました。主な内容は、税引前四半期純損失、減価償却費の計上及び未払消費税等の減少によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として新規出店・改装等による投資により3億73百万円の流出超過 (前年同期は4億70百万円の流出超過)、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で2億15百万円の流出超過 (前年同期は2億62百万円の流出超過) となりました。

この結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末比15億78百万円減少し、119億75百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年4月28日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,554	11,975
売掛金	943	881
商品及び製品	42	55
原材料及び貯蔵品	574	515
その他	792	1,176
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	15,906	14,603
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,363	7,284
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,477	1,526
有形固定資産合計	14,565	14,534
無形固定資産	153	130
投資その他の資産		
差入保証金	4,789	4,756
その他	2,829	2,841
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	7,588	7,567
固定資産合計	22,306	22,232
資産合計	38,213	36,836

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,205	1,099
短期借入金	950	950
未払法人税等	8	143
賞与引当金	477	546
その他の引当金	287	287
その他	2,865	2,231
流動負債合計	5,795	5,258
固定負債		
退職給付引当金	1,026	1,014
資産除去債務	1,324	1,325
その他	544	595
固定負債合計	2,895	2,934
負債合計	8,690	8,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,311	8,369
自己株式	△118	△119
株主資本合計	29,124	28,181
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	397	461
評価・換算差額等合計	397	461
純資産合計	29,522	28,643
負債純資産合計	38,213	36,836

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	20,219	19,741
売上原価	6,549	6,516
売上総利益	13,669	13,224
販売費及び一般管理費	14,668	14,266
営業損失(△)	△999	△1,041
営業外収益		
受取利息	9	7
受取配当金	11	13
協賛金収入	8	8
その他	5	5
営業外収益合計	34	34
営業外費用		
支払利息	4	4
賃貸借契約解約損	—	14
会員権評価損	2	—
その他	1	0
営業外費用合計	7	19
経常損失(△)	△972	△1,025
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産除却損	40	30
減損損失	158	—
特別損失合計	199	30
税引前四半期純損失(△)	△1,171	△1,053
法人税、住民税及び事業税	58	58
法人税等調整額	△358	△350
法人税等合計	△300	△292
四半期純損失(△)	△871	△761

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△1,171	△1,053
減価償却費	684	597
減損損失	158	—
売上債権の増減額(△は増加)	317	61
たな卸資産の増減額(△は増加)	△72	45
仕入債務の増減額(△は減少)	△283	△106
未払消費税等の増減額(△は減少)	137	△528
その他	△102	△69
小計	△332	△1,053
利息及び配当金の受取額	21	20
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額	△300	△38
法人税等の還付額	0	95
その他	△16	△9
営業活動によるキャッシュ・フロー	△632	△989
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△598	△424
差入保証金の回収による収入	190	76
その他	△61	△24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△470	△373
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△180	△180
その他	△82	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△262	△215
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,366	△1,578
現金及び現金同等物の期首残高	13,162	13,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,796	11,975

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。